

5月のほけんだより



爽やかな風が吹く心地良い季節になりました。新年度が始まってから1か月が過ぎ、園生活のリズムにも慣れてきた子どもたちの、元気に遊ぶ声が園庭から聞こえてきます。

ゴールデンウィークはレジャーや旅行などを楽しむ御家庭も多いかと思います。休息や水分補給の時間を十分取り入れるなど、お子さんにとって無理のないようお過ごしください。

《4月の感染症等の状況》

発熱・呼吸器症状・・・65人

嘔吐・下痢症状・・・10人

溶連菌感染症・・・1人

リンゴ病・・・1人

RSウイルス感染症3人

ヒトメタニューモウイルス・・・1人

花粉や黄砂などの影響か、咳・鼻水の症状が出ているお子さんがいました。発熱しておらず、機嫌が良い場合は、様子を見ますが、繰り返す咳、ぼーっとしているなど、お子さんが辛そうにしているときは、発熱の有無に関わらず、御連絡します。



～～保健行事～～

歯科検診：5月9日（木）9:00～

*つくし組のまだ歯の生えていないお子さんも、歯茎やお口の中を見てもらいます。

健康診断：5月29日（水）12:15～ つくし組・ひまわり組

歯磨き指導：5月27日（月）9:30～

ちゅうりっぷ組・ひまわり組・さくら組

*歯科衛生士さんが来てくださいます。

※用意していただく持ち物はありません。



子どもの熱中症に注意してください

急に気温が上がり、夏日、真夏日になる日もある5月は、まだ体が暑さに慣れていないので、特に注意が必要です。

こまめな水分補給を心がけてください。

- 子どもが「のどが渴いた・・・」と言わなくても、大人が声掛けをして、飲ませてあげてください。



解熱剤（熱さまし）って何の薬？

お子さんの発熱等の原因は様々で、病院に行くと、それぞれの病名・症状に合った薬が処方されます。

抗生物質：細菌をやっつけるお薬

抗炎症剤：腫れや痛みを和らげるお薬

去痰薬：痰・鼻水を出し易くするお薬

気管支拡張剤：気管支を広げ、呼吸を楽にする薬

その他、整腸剤、抗アレルギー薬等・・・

*これらは、病気を治したり、症状を楽にしたりする、回復に向かうためのお薬です。

それともう一つ、例：「熱が38.5℃以上になったら使って」などの指示で処方される『解熱剤』（熱さまし）があり、食後薬などとは別に頓服薬として処方されることがあります。

発熱は、体が病気の原因となる細菌やウイルスと戦っている時の体の防御反応です。発熱時に解熱剤を使用すると、その戦いは一時的にお休みになり、熱は一旦下がりますが、病気そのものはまだ治っていません。発熱してつらいときは、解熱剤を使用して、一時的に楽になっている間に、食事や水分を取り、ぐっすり眠り体力の回復を図ります。ただ、解熱剤の効果が切れると再度発熱することがあるので注意が必要です。



～お願い～

*解熱剤を使用して、解熱した状態での登園は、保育中、急な再発熱の恐れがあり危険です。解熱剤を使用せず、解熱後24時間以上経過してからの登園をお願いします。

*解熱剤の使用に関しては、医師の指示をお守りください。

*発熱は体力が消耗します。

ゆっくり静養し、お子さんの体力が回復してからの登園をお願いします。